

まほらいな市民大学の様子

令和5年4月29日（土）高遠町桜大学 第1講座

『 高遠で培った会津の義 』

講師 会津松平家14代当主 松平 保久 氏



保科正之公の縁で伊那市と福島県会津若松市・猪苗代町は親善交流都市となっている。講師の松平保久氏からは、三代将軍徳川家光の異母兄弟であった保科正之公の生い立ちや、高遠、山形、会津若松それぞれの藩主として領民を慈しむ心を持って行った仁政のこと、四代将軍家綱の補佐役として幕政に打ち込んだことなどの話がありました。そして保科正之公の「会津藩家訓15カ条」を守り通し、京都守護職となった松平容保と最後の将軍徳川慶喜の動きや、鳥羽伏見の戦い・戊辰戦争での徳川幕府への忠誠心のこと。明治維新後、日光東照宮の宮司を務めた松平容保、朝敵の汚名が晴らされた秩父宮勢津子妃のことなど熱く語られました。

松平保久氏は、『会津魂＝愚直』と自ら選んだ言葉を示し、「戊辰戦争155年。会津の愚直の魂に学び、義を通した戦いを誇りに思う。今あるのは先人たちのおかげである。」とまとめられました。

学生からは、「高遠にゆかりのある松平家当主の方の貴重な話であり、他では聞けない話でした。」「14代当主松平保久さんは、話し方も巧みで聞き入ってしまいました。幕末の会津藩の動きや悲劇についても心に残るものがありました。」「会津魂＝愚直、歴史を改めて知ることができました。正直に生きたいと思います。」「高遠と会津とのつながりが良く分かり、今まで以上に歴史に興味を持てるようになりました。旅行で訪れるのが楽しみになりました。」といった感想がありました。